



画像診断医の働き方改革： コマンドセンターと医療DXの融合

信州大学医学部医療データサイエンス講座（附属病院放射線科）

山田 哲

信州大学医学部附属病院では、医師の働き方改革に対応しCT検査業務の効率化を目的とした異職種協働による「PEACEプロジェクト」を推進している。本プロジェクトでは、業務のボトルネックを特定する「プロセスマイニング」とリアルタイムで業務を可視化・行動提案を通じて業務最適化を目指す「コマンドセンター」を導入し、検査予約から検査実施・読影にいたるプロセス全体の最適化によってCT業務の効率向上を実現した。

Shinshu University Hospital has initiated the "PEACE Project," a cross-functional collaboration designed to enhance the efficiency of CT examination operations in response to changes in physician work practices. The project's primary objective is to implement "process mining" as a means of identifying operational inefficiencies and to establish a "command center" that would facilitate real-time visualization of operations, and the proposal of actions aimed at enhancing operational efficiency. The project has achieved improved efficiency in CT operations by optimizing the entire process, from examination order to examination execution and image interpretation.

はじめに

近年、医療現場では「医師の働き方改革」により効率的な業務運営が求められている。特に、医療データの管理と活用は、質の高い医療サービスを提供するために必要不可欠である。そこで注目されているのが、GEヘルスケア・ジャパンが提供する「コマンドセンター」である。信州大学医学部附属病院では、「信大病院PEACEプロジェクト」を立ち上げ、コマンドセンターの本格稼働に向けて取り組んでいる。

PEACEプロジェクトとは、「“Prompt”（迅速で），“Efficient”（効率的で），“Accurate”（正確な），“CT Examination”（CT検査）を目指すプロジェクト」として、患者・医療従事者双方が安心、平穏な気持ち（PEACE）が

えられる意味をこめている。本プロジェクトは、2023年度の文部科学省支援事業「信州大学医学部等教育・働き方改革支援事業（支援額：28,794千円）」の一環として、信州大学医学部附属病院長をプロジェクトオーナー、医学部医療データサイエンス講座（附属病院放射線科兼務）の山田がプロジェクトリーダーとして、2023年4月に発足し、2024年9月の正式運用開始を経て現在進行中のプロジェクトである。

PEACEプロジェクトの背景

プロジェクトの背景として、読者の皆様もご存知の通り2024年度より始まった医師の働き方改革にともなう医師の時間外・休日労働時間の上限規制適用がある。これにより医師の労働時間短縮に向けた取り組み

が急務であるが、限られた人的資源のなかで労働時間短縮を実現するためには業務効率化、特に待ち時間の短縮が必要不可欠と考えられる。そのような中、現代医療においてCT検査は診療の中心となる画像検査であり、検査のオーダーから実施、読影、画像診断レポートの確認までの一連の業務プロセスを最適化し、診療サイクルの回転を早くすることは診療科を問わず医師の労働時間の短縮に向けた恩恵は大きいと考えた。我々放射線科においても、これまでに業務最適化に向けた取り組みとして、放射線科専攻医が読影の優先順位をトリアージし、放射線診断専門医がそれらのトリアージに基づいて画像診断レポートを作成するTriage Readerシステムを2017年から導入し、読影業務の効率化と質的向上に努めてきた。しかしながら、画像診断業務全体の